

## 地域（磐田市）小規模事業者の動向

【平成28年度 第3/四半期（28.10～12月景況調査）】

平成29年1月

### 【調査の概要】

- 1、調査目的・・・磐田市商工会が小規模事業者の持続的発展を支援するために、当会から見た地域の景況並びに経営課題を把握する。
- 2、調査対象・・・当会の会員企業58社  
業種別内訳は、地区内商工業者の構成比率を考慮して、建設業13社、製造業20社（輸送関連3社、その他17社）、小売業10社、飲食業4社、サービス業11社とした。
- 3、調査方法・・・当会の経営指導員による面接聴取によるアンケート調査
- 4、調査内容・・・対前年同月との比較  
項目：売上高の増減、仕入単価の変動、利益の増減、資金繰りの変化、人材の充足度
- 5、分析方法・・・各項目について、プラス傾向（増加、上昇、好転、過剰）から、マイナス傾向（減少、低下、悪化、不足）の構成比を差し引いた数値（判断指数）・DIをもとに分析した。

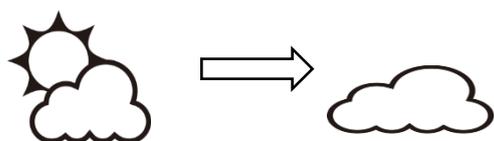
（注）地域金融機関の景況調査（静岡県西部地域しんきん経済研究所）の調査結果も活用し地域の動向を把握することとした。

### 【製造業の状況】

<磐田地区製造業の景況感>

売上高、利益は減少、原材料費は少し上昇みであり、少し悪化している。

（ただし、しんきん経済研究所の調査では、売上高、利益共に改善となっている）



#### ●売上額の動向

売上額DI（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は－15.0。前期比では19.2%悪化となった。

静岡県西部地域しんきん経済研究所（以下では、しんきん経済研究所と略称する）による調査では、製造業全体で7.9であった。前期比では16.1%の改善となっている。

当会の調査との差は調査対象地域の差によるものと考えられる。

#### ●仕入単価の動向

仕入単価DI（上昇－下降）は、当会調査では製造業全体は15.0。前期比では2.5%悪化となっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で8.0であった。前期比では4.2%の悪化となっている。

両調査とも若干の悪化となっているが、ほぼ同水準の仕入単価が続いている。

### ●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は－10.0。前期比では10.0割の悪化となっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で3.6であった。前期比では13.0割の改善となっている。両調査の差は、「売上額の動向」と同様、調査対象地域による差と考えられる。

### ●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では製造業全体で±0.0。前期比では±0.0となっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で－9.4であった。前期比では0.7割の改善となっている。

### ●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では製造業全体で10.0。ほぼ適度の人員が確保されていると判断される。

しんきん経済研究所では製造業全体で－15.9であった。前期とほぼ同水準となっている。

			28年6月	28年9月	28年12月	前期比
売上額	増加－減少	当会の調査値	0.0	4.2	－15.0	－19.2
		しんきん経済研究所	－16.6	－8.2	7.9	16.1
仕入単価	上昇－下降	当会の調査値	28.6	12.5	15.0	2.5
		しんきん経済研究所	－1.1	3.8	8.0	4.2
利 益	増加－減少	当会の調査値	0.0	0.0	－10.0	－10.0
		しんきん経済研究所	－17.0	－9.4	3.6	13.0
資金繰り	楽－苦しい	当会の調査値	23.8	0.0	0.0	0.0
		しんきん経済研究所	－9.8	－10.1	－9.4	0.7
人 手	過剰－不足	当会の調査値	0.0	4.2	10.0	5.8
		しんきん経済研究所	－8.4	－16.9	－15.9	1.0

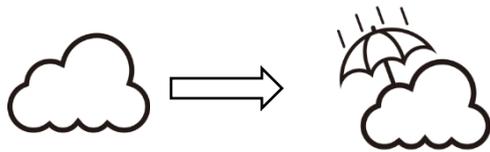
### ●調査員コメント

- ・できる業務を増加して売上拡大に取り組んでいる。（車両）
- ・自社にマッチする補助金を紹介してほしい。（車両）
- ・仕事量が不安定で計画が立たない。設備はあるが稼働率が悪い。（車両）
- ・以前、持続化補助金を活用して広告宣伝をした。今後も活用していきたい。（機械）
- ・現在の分野で安定した取引があるが、他分野で新商品開発を研究中である。（化学）
- ・近隣に同業者がなく、遠方から来店者がある。社内の売店の売上増を図りたい。（食品）
- ・社員のやる気を高めるため、情報を開示して透明性のある職場環境づくりをしている。（織物）
- ・同業者の廃業が続いている。機械を新しくしてまで営業を続ける意欲はない。（織物）

## 【建設業の状況】

### ＜磐田地区建設業の景況感＞

売上高は減少。材料価格の大きな変動はなく、利益が減少という状況にあり、少し悪化している。（ただし、しんきん経済研究所の調査では、売上高、利益共に小幅な改善となっている）



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では－7.7、前期比では－16.8 ㊦の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－6.3であった。前期比では1.8 ㊦の改善となっている。

当会の調査と差がある理由は、調査対象地域による差と考えられる。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では23.1、前期比では4.9 ㊦の悪化となっている。

しんきん経済研究所では20.3であった。前期比では0.7 ㊦の改善となっている。

いずれの調査でも仕入価格は大きな変動がない。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では0.0、前期比では9.1 ㊦の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－10.9であった。前期比では11.7 ㊦の改善となっている。

静岡県西部地域全般では改善、磐田地区の建設業は悪化している模様。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では－30.8、前期比では21.7 ㊦の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－14.1であった。前期比では9.3 ㊦の悪化となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では－7.7、前期比では7.7 ㊦の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－29.7であった。前期比では5.5 ㊦の悪化となっている。

静岡県西部地域全般では人材が少し不足している。

			28年6月	28年9月	28年12月	前期比
売上額	増加－減少	当会の調査値	－50.0	9.1	－7.7	－16.8
		しんきん経済研究所	－29.7	－8.1	－6.3	1.8
仕入単価	上昇－下降	当会の調査値	16.7	18.2	23.1	4.9
		しんきん経済研究所	18.8	21.0	20.3	－0.7
利 益	増加－減少	当会の調査値	－33.3	9.1	0.0	－9.1
		しんきん経済研究所	－20.3	－22.6	－10.9	11.7
資金繰り	楽－苦しい	当会の調査値	－16.7	－9.1	－30.8	－21.7
		しんきん経済研究所	－17.2	－4.8	－14.1	－9.3
人 手	過剰－不足	当会の調査値	－8.3	0.0	－7.7	－7.7
		しんきん経済研究所	－19.0	－24.2	－29.7	－5.5

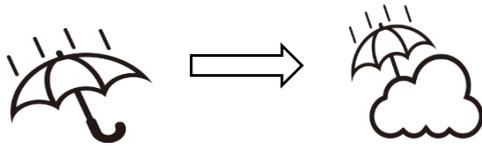
●調査員コメント

- ・売上は増加した。借入金が多く返済が大変である。
- ・リフォームの仕事が多くなった。
- ・従業員の教育に力を入れている。民間の仕事の増加を目指している。
- ・売上より利益を重視するようにしたい。
- ・補助金や助成制度の案内をしてほしい。

【小売業の状況】

<磐田地区小売業の景況感>

売上額D I（増加－減少）、および利益D I（増加－減少）は依然として低水準にあるが、前期より改善されている。



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では－30.0、前期比では28.3割の改善となっている。

しんきん経済研究所では－7.7であった。前期比では11.2割の改善となっている。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では20.0、前期比では28.3割の悪化となっている。

しんきん経済研究所では3.9であった。前期比では2.0割の悪化となっている。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では－20.0、前期比では30.0割の改善となっている。

しんきん経済研究所では－24.5であった。前期比では5.7割の改善となっている。

いずれの調査でも利益D I（増加－減少）は低水準が続いているが改善の傾向がみられる。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では－10.0、前期比では1.7割の悪化となっている。

しんきん経済研究所では－19.2であった。前期比では±0.0割と変化なし。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では0.0、前期比では8.3割の改善となっている。

しんきん経済研究所では－15.1であった。前期比では1.9割の改善となっている。

		28年6月	28年9月	28年12月	前期比	
売上額	増加－減少	当会の調査値	－50.0	－58.3	－30.0	28.3
		しんきん経済研究所	－24.5	－18.9	－7.7	11.2

仕入単価	上昇—下降	当会の調査値	30.0	-8.3	20.0	28.3
		しんきん経済研究所	5.7	1.9	3.9	2.0
利益	増加—減少	当会の調査値	-50.0	-50.0	-20.0	30.0
		しんきん経済研究所	-30.2	-24.5	-11.5	13.0
資金繰り	楽—苦しい	当会の調査値	-20.0	-8.3	-10.0	-1.7
		しんきん経済研究所	-15.1	-19.2	-19.2	0.0
人手	過剰—不足	当会の調査値	-10.0	-8.3	0.0	8.3
		しんきん経済研究所	-13.2	-17.0	-15.1	1.9

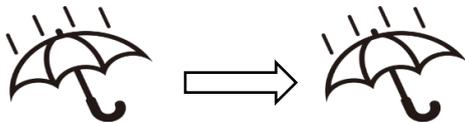
#### ●調査員コメント

- ・商工会の催事展開に参加して、販路拡大を図っている。
- ・持続化補助金に取組み、店舗の中が変わり、お客様に好評である。
- ・地域密着のきめ細かなサービスをしている。
- ・商工会には「共同チラシ」の継続を希望する。

### 【飲食業＋サービス業の状況】

<磐田地区飲食業＋サービス業の景況感>

売上額D I（増加—減少）、および利益D I（増加—減少）は低水準が続き、厳しい状況にある。



#### ●売上額の動向

売上額D I（増加—減少）は、当会調査では-46.7、前期比では5.5㊦の悪化となっている。しんきん経済研究所では-16.7であった。前期比では10.6㊦の改善となっている。当会の調査では依然として売上減少感が強い。

#### ●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇—下降）は、当会調査では33.3、前期比では9.8㊦の悪化となっている。しんきん経済研究所では16.7であった。前期比では7.6㊦の悪化となっている。いずれの調査でも仕入れ価格の上昇感は強い。

#### ●利益の動向

利益D I（増加—減少）は、当会調査では-60.0、前期比では1.2㊦の悪化となっている。しんきん経済研究所では0.0であった。前期比では27.3㊦の改善となっている。当会の調査では前期同様、利益の減少感が強い。

#### ●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転—悪化）は、当会調査では-33.3、前期比では9.8㊦の悪化となっている。しんきん経済研究所では-25.0であった。前期比では25.0㊦の悪化となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では6.7、前期比では12.6%の改善となっている。しんきん経済研究所では－8.3であった。前期比では9.9%の改善となっている。

			28年6月	28年9月	28年12月	前期比
売上額	増加－減少	当会の調査値	－33.3	－41.2	－46.7	－5.5
		しんきん経済研究所	0.0	－27.3	－16.7	10.6
仕入単価	上昇－下降	当会の調査値	0.0	23.5	33.3	9.8
		しんきん経済研究所	25.0	9.1	16.7	7.6
利益	増加－減少	当会の調査値	－33.3	－58.8	－60.0	－1.2
		しんきん経済研究所	－8.3	－27.3	0.0	27.3
資金繰り	楽－苦しい	当会の調査値	－6.7	－23.5	－33.3	－9.8
		しんきん経済研究所	－16.7	0.0	－25.0	－25.0
人手	過剰－不足	当会の調査値	－13.3	－5.9	6.7	12.6
		しんきん経済研究所	－33.3	－18.2	－8.3	9.9

●調査員コメント

- ・持続化補助金で看板を変更した。新たな事業を行ったことで本業の減少分をカバーできた。
- ・宴会が減っている。忘年会・新年会2回行っていたが1回になった。
- ・新メニュー・POP製作により売上拡大に取り組んでいる。
- ・夜の宴会は減少している。この部分を集客していきたい。
- ・全従業員が修理免許類を取得することにより作業効率を高めたい。
- ・商工会には地域の創業者との交流の場を設定してほしい。